

新飛泉

第11号

(株)イメージプラン飛驒
〒506-0808
高山市松本町2118-27
TEL 0577 35-2360
FAX 0577 35-0507

http://www.image-plan.com
taruhida@iilac.ocn.ne.jp

今月の紙面

特集……………一、二面

世界共通の敵あらわる

「原価」「費用」「コスト」は同じか？
……………三面

世界共通の敵あらわる

～鳥インフルエンザ～

インフルエンザの予防摂取の時期がやってきました。昨年も鳥インフルエンザ(H5N1型)が騒がれましたが、いよいよ人型イン

フルエンザへ変異する可能性が高まってきたと大きく報道されています。前号で対人認知を地球規模で行うには、宇宙人の飛来が必要と書きましたが、人類共通の敵として、宇宙人よりも鳥インフルエンザの方が先に扱われるようです。まー、ウイルスというものは30億年以上前に宇宙から来たという説もありますし、数年に一度大流行するものは、彗星が撒き散らしたウイルスが空から落ちてくるからという話も聞いたことがありますから、宇宙からやってきたものという点では同一かもしれませんが。

さて、鳥インフルエンザがもし人同士への感染力を持つことに

なつた場合、ものすごい数の死者が出るといわれていますが、それは治療薬が開発されていないからです。ワクチンといわれるもので

す。鳥型インフルエンザの段階で動物実験までは出来ているようですが、それでも来年の秋まで待たなくてはいけないそうです。これは、実際のところ人型インフルエンザが出てこなければその有効性が実証できないので、疑わしくもありません。大流行してからの勝負といった状態でしょう。

ところが、この鳥インフルエンザが人型に変異した場合でも有効かもしれないと脚光を浴びている医薬品が出てきました。オセルタミビル(リン酸オセルタミビル)といわれるもので、通称タミフルです。テレビなどのメディアで盛んに取り上げられていますので、一度は耳にされたことがあるとは

思います。ウイルスは種類によって型が違うので、予防接種でも当たり外れがあるのに、このタミフルはなぜ鳥インフルエンザに効果があるのでしょうか？昨年の三月二十日にNHKで放送した「週刊こどもニュース」で分かりやすく説明されていました。

(以下引用)

「鳥インフルエンザウイルスに効(き)く薬とはどんなもの？」政府は、「鳥インフルエンザ緊急(きんきゅう)総合対策」をまとめました。この中で、「鳥インフルエンザに効く」とされる薬を準備しておく、というものがありません。どういふものなのでしょうが、

これを説明するために、まず、鳥インフルエンザウイルスとはどんなものかを考えましょう。インフルエンザウイルスには、まわりにトゲトゲがいつぱいついていますが、このトゲトゲは、いずれもたんぱく質からできているのです。2種類に分かれます。→マグルチニン(略してH)と、

ノイラミニダーゼ(略してN)です。このHとNにも、それぞれいくつもの種類があり、番号がつけられています。今回、京都府で発生した鳥インフルエンザウイルスは「H5N1」と呼ばれます。Hの5というたんぱく質のトゲと、Nの1というたんぱく質のトゲがまわりについていますよ、というもののなです。

ウイルスは、それ自身では生きていけません。必ず、ほかの生き物の体を自分の家として使います。鳥インフルエンザの場合、鳥の体の細胞(さいぼう)に入り込むのです。

ウイルスは、まずHのトゲを使って細胞に取りつき、細胞の中に入り込みます。細胞の中で、その細胞を使って、自分のコピーを大量に作ります。細胞の中に入ればいになったウイルスは、今度はNのトゲを使って細胞を破って外に出て行きます。そして、近くの別の細胞に取りつきます。

ウイルスはこれを繰り返して自分のコピーを大量に作り出します。1個のウイルスが、24時間で100万個にも増えるのです。

二ページへ続く

世界共通の敵あらわる

鳥インフルエンザ

ウイルスによって細胞は次々に破壊(はかい)され、その細胞がある生き物は病気になるてしまします。

最近ではウイルスに対抗する薬ができています。「抗ウイルス薬」といいです。この薬は、働きによって2種類あります。

このウイルスが、鳥の体やフンから人間の体にも入り込む可能性がありません。しかし、インフルエンザはトゲの形がそれぞれ異なるので、人間の細胞には、なかなか取りつけないと考えられています。ところが、大量のウイルスが入り込むと、中には人間の細胞に取りついてしまうものがあることがあるようです。すると、このウイルスが細胞の中に入り込み、細胞の中で大量に増えてしまつ、ということになるかも知れません。

どんな働きをするか、ウイルスが細胞に取りついて増える仕組みをあらためて見てみましょう。ウイルスは、細胞に取りつき、自分のコピーを作らせます。そのときに、コピーをさせないようにストップさせ、ウイルスが増えないようにする仕組みです。でも、この薬については、効かなくなるウイルスが出てきています。

そこで、ウイルスの対策が考えられています。ウイルスの対策といえは、ワクチンがあります。でも、それぞれのウイルスにぴったりに合ったワクチンでないと、効果がありません。まだ人間に鳥インフルエンザウイルスが入った場合のウイルスを抑えるワクチンは見つかっていません。

もう1種類の薬は、コピーが行われた後のウイルスに働きかけます。ウイルスが、Nのトゲトゲを使って細胞を突き破って外に飛び出していくのを防ぐ働きをするのです。これだと、この細胞はダメになってしまつても、ウイルスが外に飛び出していかないで、体内でウイルスが増えるのを防ぐことができますのです。この薬なら、もし鳥インフルエンザウイルスが人間の体に入つても、ウイルスを抑(おさ)えることができるので

はないかと期待されています。今回政府がまとめた対策では、万に備えて、この薬を大量に製造してたくわえておこう、ということになっていきます。(ここまで引用)

タミフルはノイラミニダーゼという酵素によりインフルエンザウイルスが感染細胞表面から遊離することを阻害し、他の細胞への感染・増殖を抑制します。つまり、コピーが行われた後のウイルスに働きかけるといふことで、新たなインフルエンザにも効果があるのではないかといわれているわけです。ただし発病後四十八時間以内に投薬しないと効果が無いとされています。これは、タミフルはウイルスが新たに増殖するのを阻害する薬剤であつて、既に増殖したウイルスを殺す効果があるわけではないためです。最近では、タミフルに耐性を持つインフルエンザウイルスも実験室内では存在しているそうです。

人に行き届きにくいのが現状です。そんな状態のタミフルに鳥インフルエンザに有効という情報が流れてから、アメリカからの一部個人や団体が大量に買占めを行ったため、販売会社は輸出制限を行っているとのこと。

WHOなどの国連機関や公共性を自負する報道機関は国際協同を呼びかけています。しかし、現在の資本主義社会ではうまくいかないのではないかと気がします。インフルエンザにかつた鳥の駆除においても、養鶏農家への補助が出来ない国は報告をしない恐れがあります。一部の富国だけにタミフルは集まるでしょう。今もし大流行すれば特許という枠により、人口分の確保は無理でしょう。

第一次世界大戦が終結した要因の一つに新型インフルエンザの流行があります。連合軍、ドイツ軍ともインフルエンザによる多くの被害が出ましたが、ドイツ軍の方がひどく、補給路も断たれ、休戦協定へとつながつたそうです。インフルエンザが流行してからでないと、国際協同は図られないのかもしれない。悲しいかな、人類の英知というものはそうそう簡単ではなさそうです。

コラム

「原価」「費用」「コスト」は同じか？違うか？

かかったお金のすべてが「原価」ではない

ビジネスの現場で「原価」と同じような意味で使われる言葉に、「費用」「コスト」があります。たしかに、この三つの言葉からはよく似た印象を受けますが、どんな違いがあるのでしょうか？

まず「原価」について見てみましょう。実は、原価計算については、一九六二年に当時の大蔵省企業会計審議会が公表した「原価計算基準」というものがあり、その中に「原価とは、経営における一定の給付にかかわらせて、把握された財貨又は用役の消費を、貨幣価値的にあらわしたもの」という定義があります。

何のことがよく分からない定義ですが、要するに、会社を作り出したモノやサービスのためにかかったお金を、金額であらわしたものが「原価」ということです。ここでポイントは、「作り出したモノやサービスのために」という点です。ですから、モノやサービスを作ることに無関係のお金、例えば借入金を支払利息や、投資用の有価証券（株式など）の評価

損は、広い意味でも原価になりません。

これらは、会社の運営のために使ったのであって、何かを作り出すためではないからです。

「費用」にもならないお金がある？

モノやサービスを作り出すためではなくても、金を使ったことに変わりはありません。

そこでかかったお金のすべてをあらわすのが「費用」です。原価も含めて、支払利息や投資有価証券評価損、災害による損失など、ありとあらゆるかかったお金が会社の「費用」になります。

ただし、会社の損益計算上は、「費用」は「収益」、つまり売上などと対応するものです。収益に対応しないお金、例えば売れ残った在庫や、儲けそごった利益準備金（原価）は、費用にもなりません。そこで次の「コスト」の出番です。

「コスト」はどつにでも使える言葉だが・・・
「コスト」は、英語のせい

あいまいに使われることが多いようです。実際、英和辞典を引くと「原価、費用」という訳が出てきて、どつにでも使える感じを受けます。

そこでビジネスの現場では、原価とも費用ともいえないものまで含めて、かかっているであろうお金のすべてを「コスト」と呼んでいるのが実態でしょう。

ただ、「コスト」という言葉には「こつあるべき」というニュアンスも含まれています。「コストダウン」といったときには、何でもかんでも下げなければいけないのではなく、品質を維持しながら無駄なコストを省くというニュアンスがあるのです。

とはいえ、現場ではどの言葉も厳密な意味で使われているわけではありません。実際のところ、「原価を下げる」「費用を減らす」「コストダウン」は、同じ意味で使われていることも多いでしょう。

ですから、大切なのは言葉尻をとらえるのではなく、「原価」の本質をつかんで、それを仕事に活かすことにあるといえます。

ちよつとブレイク

過去に天才と言われた人たちに共通することがあります。それはプロセスに従って説明することが比較的苦手だったということです。天才と言われる人たちは常人では理解できない回路によって結論に達してしまします。それが一般社会ではプロセス飛ばしと映ってしまつのです。天才と一重と言われる理由はここにあるような気がします。

アインシュタインの場合、一九一〇年に「相対性理論」という二十世紀最大の発見をします。これは速度と時間と空間に関する原理で、ある方程式によって導かれています。この理論を学生にも分かるように簡単な説明で表してくる人を出版社が募集しましたが、当の理論を構築したアインシュタインは「これは私には出来ないことだ」と言つたそうです。

通常であれば、目的がまずあり、それを達成するための活動がなされます。ここにプロセスがあるのですが、アインシュタインはどうもそうではなかつたようです。ですから、出来上がった方程式の有効性を最初から捉えられなかつたのではないのでしょうか。

企画
連載
連に

クイズ三リオネアへの道

完結編第三章

しばらくすると、私たちに書類が手渡されました。その書類は誓約書でした。不正をしたり、虚偽があつた場合などは賞金没収などの規約が書かれていました。その書類にサインをすると、座席位置を変えますので移動してくださいと言われました。言われるまま移動すると、その位置が実際の収録での座り位置になりますと言われました。自分の位置は向かって右側の一番センターよりのポジションでした。

スタッフの人は、それでは簡単に自己紹介をしていきましようかといひ、十人の出演者は自己紹介と応援者紹介、千万円の使い道などを話しました。自分は四月二十日の最終予選でしたが、中には四月二十四日の最終予選で来たという方もいました。やはり今回の収録はあわただしいんだなと思いましたが。

自己紹介が済むと、スタッフの人は次のように話を進めました。今、一本目の収録の人はリハールをやっています。皆さんもこの後リハールに向かっていたら

ますが、その前にここで重要な準備があります。番組がスタートするとみのさんが皆さんを順番に紹介していきます。そのときに一言ずつカメラに向かって意気込みをいつていただきます。一秒ほどの短い時間ですのであまり長い言葉ではいけません。声も元氣よくお願いします。また、手を振るとか、ガッツポーズとか動作も入れてください。それでは、まず言う言葉と動作を考えてください。いいですか？そういうえば、確かに番組のオープニングに十人紹介がありました。「一千万取るぞー！」とか言つてカメラがめまぐるしく切り替わるやつです。センターステージにいけなくても、最低一秒ほどはテレビに絶対出るわけです。先ほど並び替えた順番だと自分は一番最後、トリになっています。トリですから、何か気の利いたことをいわないと……。勝手に自分にプレッシャーをかけていました(笑)。

スタッフの人がそれではリハールのリハールをやりますよということになって始まりました。この段階

で、出演者はかなり緊張気味でした。これは自分がみんなの気持ちとを和らげないと……。さらに勝手に自分にプレッシャーをかけていました(笑)。

みのさんが皆さんの紹介をしている途中で言うてください。少し早くくらいで結構です。遅れてもどンドン行つてしまいますから、何もしゃべらないうちに終わつてしまいますよ。カメラ役にADを立てます。そちらをしつかり見て大きな声で言うて下さい。みのさんの方向は見なくてもいいですから。あと、自分の番以外は拍手をしていてください。というような注意を受け、リハのリハ、スタートです。

さあ、自分の番です。「それでは、みのさんどうぞー！」といつて手を差し出しました。ん、なんてすばらしい、と自分で思ったがすぐ、スタッフの人のダメだし。「ふざけないで下さい。そんなのはいいですから！」

要注意人物に指定されてしまいました(泣)。「では、ファイナルアンサー！でどうでしょう？」あわてて代案をだすと、それで結構ですといわれました。あと他の何人かも台詞が長かったり、聞き取りにくいということと修正が入りました。五回くらい練習した

でしょうか。結構言い出すタイミングが難しいものです。リハのリハなのにかんまりの緊張感があり、結構汗をかきました。こんなんで本番は大丈夫でしょうか？

後ろに座っている応援者は楽なもんだなと思つていけると、今度は応援者に対してリハのリハが行われることになりました。センターシートに行った場合、みのさんから「応援者は？」とふられるので、それに対して、出演者は「です。」といつて振り向くことになります。すると応援者は「絶対一千万、がんばれー！」などという段取ですので、出演者がリラックasできるよう、一言応援の言葉を言つて下さいと説明がありました。声が小さいなどで何回かのやり直しがありました。父は一発OK。むちゃくちゃ元氣よく、大きな声でした。出演者変わったほうがいいんじゃない？つてくらいです。自分はスタッフに不信感を持たれているところに、父は好感触という感じでした。

その後、少し雑談がありました。が、ついに会場へ移動してリハールをすることにしました。出演者は緊張の面持ちでスタッフについて移動していきました。目の前にはテレビで見たあのセット！以下また次回へ続く